

青年経済人に聞く! これからのおおいた

2022年10月、若手経営者の青年団体、公益社団法人日本青年会議所(以下日本J.C.)の全国大会が大分で初めて開催され、全国から1万人を超える会員が大分市に集結しました。今回は、地域課題の解決等に向き合ってきた日本青年会議所第71代会頭の中島土^{なかしまづ}さん^{なかしまづ}をゲストにお迎えし、若手経営者として考える未来の大分やまちづくりへの思いについて語っていただきました。

コーディネーター 小野まゆみ(JCOM大分ケーブルテレビコム)



【撮影場所】
レンブラントホテル大分

若手経営者の発想は、 地域を変える大きな力

—— 中島さんにとって、2022年はどのような一年でしたか?

中島 私が会頭という役割をいただき、全国大会を自分のふるさとで開催させていただくとは、夢にも思っていませんでした。とても大きな課題に自分なりにもがき、挑戦した一年になりました。

今から13年前、当時の大分青年会議所(以下大分J.C)メンバーだった先輩方が、「いつかは大分で全国大会を開催したい」と誘致の活動を始めてくださり、昨年10月、ついに大分では初めてとなる全国大会を実現できました。全国各地から若手経営者を中心に1万1917人の登録があり、参加された皆さんには大分の魅力を存分に知っていただけたのではないのでしょうか。

市長 市にとっても、ラグビーワールドカップ以来の賑わいでした。全国から若手経営者の方々が集い、まちが非常に活気づいたと感じました。また、「おおいた夢色音楽祭」も同時期に開催し、全国からお越しの皆さんに楽しんでいただくことができました。

議長 一丸となった大分J.Cの「全国大会を皆で盛り上げよう」という気迫に感動しました。中島さんが大観衆に向かって自身の言葉で発した25分間のスピーチも、熱意が伝わり、素晴らしいかったですね。

各地域で行われる特色ある祭りは、地域の活性化や絆づくり、高齢者のフレイル(心と体の働きが弱くなってきた状態)予防、認知症予防等の健康づくり、児童の健全育成等につながる重要なものであります。コロナを防ごうとするあまり社会全体が萎縮し、健全性が失われていくこともこの3年の間で分かってきましたし、伝統を次世代へ引き継ぐためにも開催意義は大きいと感じました。

議長 昨年の夏頃からイベント等が開催され始め、まちの雰囲気も賑わいが戻ってきたと市民の皆さんも感じているのではないのでしょうか。行政がさまざまなイベントを、検証を積み上げながら注意深く進めてきた結果であり、その点について市の積極的な取り組みはありがたかったと思っています。

中島 我々も大分七夕まつりは初回から関わらせていただいています。少しでも市民の皆さんに「このまちに住んでよかった」と思っていただけのように、若者なりに無我夢中の思いです。

議長 大野川合戦まつりは、実は大分J.Cと深い関係があります。平成8年頃、私が座長として携わった大南地域活性化懇話会で当時の大分J.Cメンバーが大南地域の住民にアンケートをとりました。すると、大南地域の宝物は大野川だったのです。そこで、大野川を核として市民主導により誕生したのがこの祭りです。当時の彼らの実行力とアイデアには今でも感謝しています。

—— 大分J.C独自の取り組みや、今後どのような形で大分を盛り上げていきたいと考えているか教えてください。

中島 日本J.Cでは、2022年に全国の会員の皆さんと地元のおおいたの中期ビジョンを作り、「私たちが追い求めるふるさとに近づいていく」という運動を中心に展開しています。大分J.Cが掲げたビジョンは「STEAMランドおおいた」。学生や企業、多くの方々とのつながりを強化し、さまざまな切り口から大分の社会課題の解決を目指す取り組みです。ちなみに、STEAMは英語で湯気のことで、温泉水のSTEAMともかけました。学生の皆さんと「おおいた活性化ネットワーク」という取り組みで連携し、さまざまな事業を行っています。2023年度は、これらのつながりを一層強化していきたいと考えています。

まち全体に活気が戻り、次世代へのプロジェクト実現に機運が高まってきた

—— 昨年はコロナ禍以降3年ぶりに「大分七夕まつり」も開催されました。

市長 新型コロナウイルスオミクロン株の感染による症状は重篤化しにくいこと等から行動制限は実施せず、市が主催するイベント等を基本的な感染対策を徹底した上で開催しました。また、「ななせの火群まつり」「本場鶴崎踊大会」「大野川合戦まつり」等地域の行事も開催されました。

—— 昨年5月には東京で「豊予海峡ルート推進シンポジウム」が開催されました。

市長 市では豊予海峡ルートの実現に向けた調査を行い、その実現性や地域活性化に向けた意義を確認してきました。このルートが整備されると「地方拠点の形成・強化」や「観光需要の拡大」、さらには「地域産業の発展」「地方移住の促進等、コスト以上に大きな経済効果が期待されます。これは国の国土形成計画の中に位置付けるべき大きなプロジェクトであり、そのことを東京で発信できたことはとても意義があります。

シンポジウムには中島さんも来賓として出席いただき、大変心強い挨拶をいただきました。今後も、未来の子どもたちのために必要だということを、大分J.Cの若く大きな発信力でメッセージを出し続けていきたいと思います。

中島 自分の世代も含め、将来の子どもたちにとって、「自分が住みたい」と思うまちにするために何が必要か、常に考えてきました。J.Cという団体は、「次の世代に宝物を残す」ことを目的としています。13年前、先輩方は「いつか後輩たちが全国大会を通じて、このまちの魅力を日本中に発信してくれる」と願い、未来に向けた種まきをしてくださいました。豊予海峡ルート推進も、我々世代では実現できなくても、次世代が「より豊かで便利な生活ができるようになる宝物」を残すための未来への種まきだと、私たちは捉えています。

* STEAM = 科学 (Science)、技術 (Technology)、工学 (Engineering)、アート (Art)、数学 (Mathematics) の5つを複合的に取り入れた教育概念。